

優秀賞

悠真の「優しさ貯金箱」

福岡県 中京中学校 一年

大本 みゆ

6月の雨の日、カサをさしながらびしょぬれで歩いて帰ってくる悠真の姿を見て、私は（今度は弟が「優しさ貯金箱」を使ったんだな）と思い、嬉しくて誇らしい気持ちになりました。

私には、小学4年生と小学2年生の二人の弟がいます。ふだんは仲がよいのですが、2年生の弟の悠真は兄弟げんかのときに、やりすぎたのに素直に謝れないことが時々あります。私も4年生の弟も腹が立ちますが、いつまでも仲直りできないのはいやだし、悠真が本当は反省しているのはわかっているので、ふだん通りに話しかけたり、いっしょにおやつを食べようときそったりと、先に優しくするように心がけています。

すると、すぐに仲直りをするのですが、そんなとき母はいつも悠真の胸をおさえながら、「お姉ちゃんやお兄ちゃんが優しくしてくれたこと、悠真の『優しさ貯金箱』に入れて覚えておいてね。」

と言います。悠真は真剣に話を聞いているときもあるけれど、^{ちやっか}茶化すことが多いので、「優しさ貯金箱」に私たちの優しさが貯まっているのかあやしいと思っていました。

元気いっぱい悠真は、時々落とし物をしてしまいます。1年生のときは、折りたたみガサの柄の部分^を落としてしまいました。しかし、どなたかが拾ってくださり、通学路の柵にかけておいてくれました。それに気がついた4年生の弟が家に持ち帰ったときに母は、

「カサの柄が戻ってくるなんてすごいね。拾ってくれた人やお兄ちゃんのおかげで、カサを使えるようになったことを覚えておいてね。悠真の『優しさ貯金箱』に、みんなの優しさを貯めておいて、困っている人がいたら返してあげてね。」

と言いました。悠真は、少しふざけて返事をしていました。

先日、悠真が一番先に学校に行った日、父が、

「雨が降ると思うから、カサを持っていったほうがいいよ。」

と言うと、4年生の弟が、

「じゃあ悠真の分も持って行って、学校で渡すね。」と言いました。

帰るとき、父が言っていた通り、雨が降りました。私が家に着くと、車で帰宅したばかりの母がいました。話しながらカサをたたんでいると、悠真を見つけました。1年生の女の子といっしょです。1年生の女の子をカサに入れて、半分ぬれながら帰っています。自分はびしょぬれになりながら、女の子を家まで送り届けていました。私と母は悠真の前に飛び出して、悠真を抱きしめました。私も母も悠真も嬉しくて、誇らしい気持ちでいっぱいです。

今、私の「優しさ貯金箱」は、たくさんの人の優しさでいっぱいです。だから、私も悠真のように困っている人がいたら優しさを返していきたいです。